『みねさんの　あぁ、そうなんだ塾』　【第１３回】

前回は、サマリア人が〈敵対関係〉にあるユダヤ人の旅人を助け、旅人も〈敵〉であるサマリア人に助けられたのは、お互いをひとりの人間として何の差別・偏見もなく受けとめる心をもっていたから … ということを書きました。きょうは「〈隣人〉とは誰か」という律法学者の質問に対して、イエスがどう答えたか ― をみていきましょう。

◇善きサマリア人のたとえ　（その３）

第 11 回でご紹介した**『ルカによる福音書』**第 10 章 29 節と 36～37 節を思い出してください。29 節で律法学者がイエスに『**わたしの隣人とはだれですか**』と質問しました。

さあ、ここです。ここに注目してください。

「(わたしの) **隣人とはだれですか**」という質問をするとき、その人は世の中には〈**隣人としてふさわしい人〉―** たとえば、神の言葉である律法をしっかり守り、仕事もきちんとこなし、人望もあり、世の中のために尽くしている人 … がいて、一方**〈隣人としてふさわしくない人〉―** たとえば、律法をたびたび破り、一生けんめい仕事に取り組んでいるとは思えず、信用もあまりなく、お金となると目の色が変わるような人 … がいる ― ということを前提としています。質問の前に、すでに人間を大きくふた通りに分けて見ているのです。

「〈わたし〉にとって〈隣人としてふさわしくない人〉・〈隣人としての価値がない人〉は、愛さなくていい・大切にしなくていい」と考えているのです。ここに人間の**〈エゴイズム＝自己中心性〉**が見え隠れしています。

それを見破っていたイエスは、『**サマリア人のたとえ話**』をされたのでした。話し終えたイエスは、『**さて、あなたはこの３人の中で、だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか。**』と、逆に質問しました。

ふたつ目の注目点です。

イエスは**『だれが隣人か』**に答えたのではなく、**『だれが隣人になったか』**と問うています。「だれが隣人か」という質問は、〈隣人〉をある特定の人たちの名や集団を具体的に求めています。イエスは、「隣人」とは「この人だ・あそこにいる人たちだ」という限られた人や集団ではなく、わたしたちが《**隣人になる・なっていく**》のだと言うのです。イエスは、〈隣人〉という言葉を前にしたわたしたちの視点を、180 度ひっくり返したのです。

ここで、みなさんもご存知の方が多いと思いますが、マーティン・ルーサー・キング牧師がこの『善きサマリア人のたとえ』についての講話を遺していますのでご紹介します。

【キング牧師　Martin Luther King, Jr.　1929-1968　　アメリカの公民権運動・黒人解放運動指導者。1964 年ノーベル平和賞受賞。キリスト教信仰に基づく非暴力主義の人種差別撤廃運動、反戦平和運動を推進。1968 年暗殺される。】

『祭司とレビ人が第一に問うたことは、「自分がこの人を助けるため立ちどまったなら、**自分に何が起こるだろう**」という問いだっただろうと想像している。しかし、良きサマリア人の場合には、（中略） むしろ逆に、「もし自分がこの人を助けるために立ちどまらなければ、**この人にどういうことが起こるだろう**」とまず問うたであろう。』

また、アルベルト・シュヴァイツァー【Albert Schweitzer 1875-1965 フランスの神学者・哲学者・医師。1913 年、現・ガボン共和国に渡り、医療と伝道に献身。バッハ研究家、オルガン奏者としても有名。52 年ノーベル平和賞受賞。】の行動を取りあげ、（彼は）『「自分がアフリカの民衆と共に働けば、**自分の職業や信望、地位などがどうなるだろうか。バッハのオルガン曲奏者としての自分の地位に何が起こるだろうか**」など**とは問わず**、むしろ「自分が彼らのところに行かなければ、**不正義の力によって傷つけられたおびただしい数の民衆はどうなるだろうか」と問うた**のである。』と捉えています。

レビ人もシュヴァイツァーも、行動を起こすときに**「自分はどうなるだろう」**ではなく、「もし自分が行動を起こさなかったら、**その人〈他者〉はどうなるだろう**」と考えたのです。

〈自分のために〉努力する人はたくさんいます。これをしたら**〈自分のためになるかもしれない〉**と思えたら、人を助ける人もいます。でも、〈**ただ他者のために、他者の大事なことのために、よろこんで助ける人〉**は少ないのです。キング牧師は黒人解放、人種差別撤廃、反戦平和運動に命を捧げました。〈他者＝隣人〉のための生涯でした。

『**隣人とは、**道端で困って横たわっている人のことである。彼はユダヤ人でも、異邦人でもない。また、ロシア人でもアメリカ人でもない。黒人でも白人でもない。**人生にたくさんあるエリコ街道の一つで困窮している「ある人」なのだ。**』

〈隣人〉について、もうひとつ書かせてください。ぜひお読みいただきたい文があります。

山浦玄嗣（やまうら　はるつぐ）氏の本に感動的な話があります。２年前の東日本大震災のとき、岩手県気仙地方にたくさんの〈隣人〉が訪ねた話です。長くなりますが、そのまま引用させていただきます。

『大津波の惨害の後、見わたす限りの瓦礫の野で、猛烈な死臭のただよう中、黙々と働きつづけるたくさんの人びとを見ます。東京から来た人、横浜から来た人、鎌倉から来たという人、大阪から来た人、神戸から来た人、熊本から来た人、中には鹿児島から来た人びともいます。アメリカ人やカナダ人の青年たちも泥だらけになって働いています。イギリス人も、台湾人も、そしてイスラエル人も、スペイン人もいます。

時々、ちょっとしたケガをしたり、過労で気分が悪くなったり、風邪を引いたりといった外国人の青年たちがわたしの医院にやって来ます。みんな明るくて、朗らかで、楽しそうに働いています。わたしが精いっぱいのお礼をいうと、**「トモダチ、トモダチ」**といってニコニコしています。

こういう人びとのことを聖書は「隣人」というのですが、日本語の隣人にはそこまでの含意はありません（※文末の私の【注】参照）。こうした内容がはっきりとわかるような話をしましょう。この人たちは**見ず知らずのわたしたちのために、自ら進んでわたしたちの身内となり仲間となり、兄弟となり、親友になってくれている人びと**です。身銭を切ってはるばると海山を越え、寝袋一つでごろ寝をし、朝から晩まで泥だらけで働いています。まるで**わがことのように心配して**くださって、力いっぱい働いています。この恩は末代までも忘れてはならないと思います。

この「ダーヴァール＝**できごと**」こそ、**神さまからの**「ダーヴァール＝**ことば**」なのだとわたしは信じています。**神さまはわたしたちを決して見捨てたりはなさいません。悲しみの中に、苦しみの中に、こんなすてきな幸せを用意してくださる**のですから。』

（【ダーヴァール】＝ヘブライ語。ヘブライ語で旧約聖書が書かれました。）

キーボードを叩きながら、（もう何度目になるでしょう … ）熱いモノがこみ上げてきます。国内や世界各地から駆けつけた人たち。彼らは、遠く離れた地で人生最悪の出来事に襲われ、自分の成長を見守ってくれた両親や祖父母を、自分のいのちより大切にしてきた子どもを、語り合いながら喜びも悲しみも共有してきた親友を、同じ夢を追いかけようとしていた恋人たちを、生きがいと生活の糧を与えてくれていた船や田畑を … 失った〈トモダチ〉のために来てくれたのです。その荒れ果てた地に、レビ人やシュヴァイツァーのように、嘆き苦しむ〈友〉〈仲間〉〈兄弟姉妹〉を大切にしてくれる〈隣人〉が来てくれたのです。

あの年、わたしも泥かきや炊き出しのボランティアに参加し、岩沼市・石巻市・多賀城市へ行きました。石巻で炊き出しをした日。被災後に週 1～2 回、自分のトラックに作業道具を詰め込み、東北へ出かけているというある会社社長の老リーダーと一緒になりました。その熱意に感動しました。しかし、その人が休憩時間にもらしたひと言に絶句しました。「東北のためにこんだけやってれば、群馬で何かあったとき助けに来てくれるだんべ 。」… 。すぐに歩いてでも桐生に帰りたくなりました。とても寂しかったです。哀しかったです。小学校の校舎の陰で地団太を踏みました。彼に真の〈隣人〉になってほしい … と、心から祈りました。

「あなたは隣人になることができますか」と、わたしたちは一人ひとり問われています。簡単になれることではありません。でも、「わたしにはなれません」と、すぐあきらめていいのでしょうか。とてもむずかしいけれど、生涯を通して出会う人たちの〈隣人〉に、少しずつ・焦らず・ゆっくりと・祈りながら**〈なっていけばいい〉**のではないでしょうか。きっと神さまは、わかってくださっているはずです。力を貸してくれるはずです。

【注】４冊の日本語辞書における〈隣人〉の語義 ……

①隣近所に住んでいる何らかのかかわりあいのある人。「――愛」。（『**新明解国語辞典**』）

②となりに住む人。となり近所の人。また、自分のまわりにいる人。「――愛」。（『**大辞泉**』）

③隣近所に住む人。［隣人愛］身近な人々への愛情。キリスト教倫理で、他者たる隣人に対する

愛。(『**大辞林**』)　　④〈隣人〉という項目なし。[隣人愛] 隣人である他人への愛。イエス・キリストは、すべての人に対する無償で無差別の愛の実践を説いた。(『**角川必携 国語辞典**』)

《各辞書の項目数》『**新明解**』77,500 語以上。『**大辞泉**』25 万項目以上。『**大辞林**』238,000 項目。　『**角川必携**』 52,000 余語。4 冊中、いちばん項目数が少ない『角川必携 国語辞典』がいちばん適切な説明ですネ。

……

【引用した書籍】　・M.L.キング　**『汝の敵を愛せよ』**(新教出版社、2006)

・山浦玄嗣　**『イエスの言葉　ケセン語訳』**